

安曇野市総合計画前期基本計画政策評価について (対象年度：令和2年度)

部局の枠をこえた視点で政策の分析・検証を行うことで、達成度や課題を明らかとするため、5つの「基本目標」と数値目標の設定のある45の「基本施策」を単位に評価を実施しました。

1. 基本目標1 いきいきと健康に暮らせるまち

誰もが生きる喜びを感じ、住み慣れた地域でいきいきと健康に暮らせるまちをつくります。

【基本目標に係る評価の概要】

(1) 基本目標の評価

この基本目標に関する数値目標は16項目設定されています。各数値目標の進捗の判定については、

・「予定以上」：1件 ・「順調」：7件 ・「停滞」：8件

となりました。

前期基本計画では「健康長寿のまちづくり」を重点テーマとして掲げています。関連施策として、生涯学習やスポーツ、芸術文化活動の推進等も、達成のための推進力として位置付けられていますが、その中核を担うのがこの基本目標を構成する施策となります。

令和2年度、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」と表記します）の拡大は、市民の健康づくりや暮らしに深刻な影響を与えました。総合計画の数値目標においても、特定健診の受診率の低下や夜間急病センターの利用控えに影響が現れています。市や社協窓口で受け付けている生活困窮に関する相談は、令和元年度比で2.5倍以上（842件）に上っています。

コロナの影響は今後も長期化が懸念され、引き続き優先的な対応を要する一方で、コロナを理由として、これまで積み上げてきた取組に後退があってはなりません。

市民意識調査の結果によると、「日常的に健康づくりをしている」と回答した市民は、全体の71.4%を占めており、コロナ禍においても高い水準で健康への関心が維持されているものと推察されます。

介護予防に関する自主活動グループ（一般介護予防事業）やアクティブシニアがらぼう事業補助金の交付実績については、右肩上がり推移していることから健康づくりへのニーズと市の支援がマッチし、奏功しているものと評価できます。

また、数値目標「乳幼児健診受診率」も、コロナ以前と同様、受診率97%と高い水準が維持されています。未受診者に対しては個別のフォローも行われています。

従来からの取組であるフレイル、糖尿病、食育、歯科口腔、心の健康等といった諸課題も、感染対策等に留意しつつ推進されています。市の政策として進めている信州自然型保育も予定以上の進捗です。

全体としてコロナ対策の負担の増加に耐えつつ、計画に沿った取組が継続されているものと評価できます。

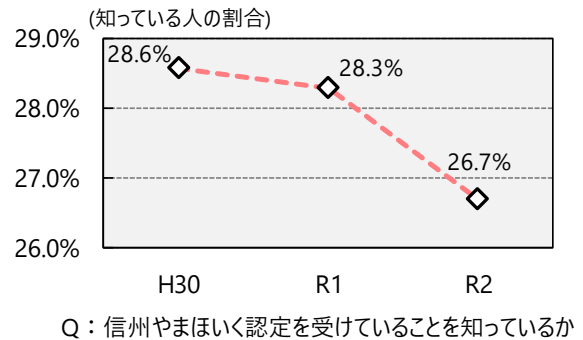
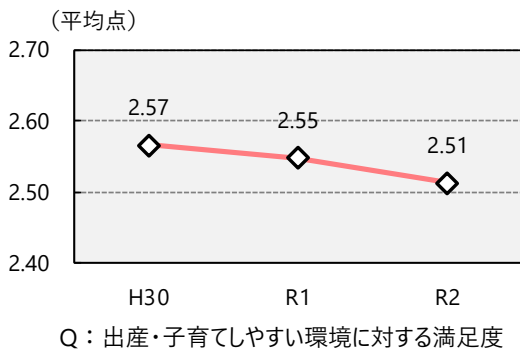
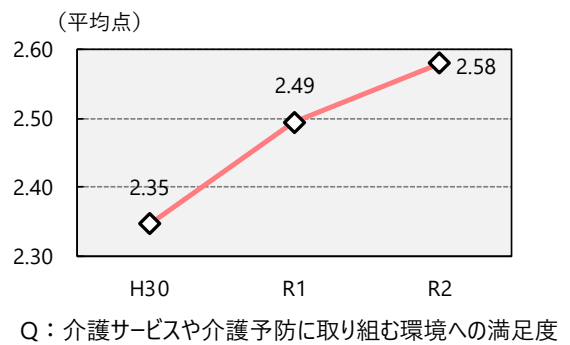
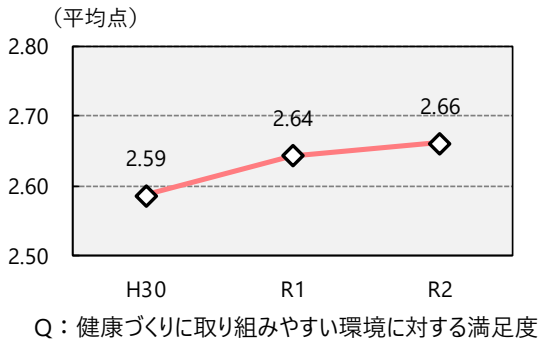
次に課題として挙げられるのが、精神障害者保健福祉手帳の所持者数の急増への対応（この10年で2倍）、待機児童の対策（3歳未満児の受入）、前述の生活困窮等が挙げられます。

特に、生活困窮者への支援について、生活困窮者自立支援制度の関連事業（自立相談支援、住居確保給付金、子ども学習支援事業）の充実・強化は、最優先で取り組むべき事項と考えられます。

また、人権問題については、SDGs やコロナ等を受け、一層注目されている課題となります。男女共同参画計画が改訂の時期となりますので、市として、人権の尊重と市民の個性・能力の発揮をどう図るかを決定する重要な段階となっています。

(2) 基本目標に関する市民意識調査 (サマリー)

満足 = 4 点、やや満足 = 3 点、やや不満 = 2 点、不満 = 1 点として、満足度の推移を数値化しています。



【施策毎の評価の概要】

施策名	評価（現状、課題）																								
<p>①健康づくりの推進</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各種がん検診受診率（％）</td> <td>22.8</td> <td>28.5</td> <td>50</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>特定健康診査受診率（％）</td> <td>47.0</td> <td>40.3（推</td> <td>58</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>特定保健指導実施率（％）</td> <td>41.6</td> <td>54.6（推</td> <td>58</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table>	指標	当初	R 2	目標	進捗	各種がん検診受診率（％）	22.8	28.5	50	停滞	特定健康診査受診率（％）	47.0	40.3（推	58	停滞	特定保健指導実施率（％）	41.6	54.6（推	58	順調				
	指標	当初	R 2	目標	進捗																				
	各種がん検診受診率（％）	22.8	28.5	50	停滞																				
	特定健康診査受診率（％）	47.0	40.3（推	58	停滞																				
	特定保健指導実施率（％）	41.6	54.6（推	58	順調																				
<ul style="list-style-type: none"> 市が行うがん検診は、人間ドック等の検診機会の拡大を受け、受診率が停滞しています。特定健診は横ばいで推移していましたが、令和2年度はコロナの影響で大幅に低下しました。特定保健指導は目標値に向け順調に推移しています。 現在、コロナの対応に財源や人的資源を集中投下せざるを得ない状況となっています。ワクチン接種が完了した後も、当面の間、所要の対応の継続が想定されます。一方で、従来からの取組んでいるフレイル、糖尿病、食育、歯科口腔、心の健康といった取組の継続も必要です。 市が重点的に推進している自転車を活用したまちづくりについては、サイクリングコースのAコースは概ね整備完了、B・Cコースは今後順次、整備していきます。令和3年度は、関連施策を体系的、効率的に取組むための自転車活用推進計画の策定やマウンテンバイクコースの整備、自転車の健康づくり実証実験（健康増進に対する効果検証）を予定しています。 																									
<p>②地域医療の充実</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夜間急病センター受診者数</td> <td>1,788</td> <td>238</td> <td>1,800</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table>	指標	当初	R 2	目標	進捗	夜間急病センター受診者数	1,788	238	1,800	停滞														
	指標	当初	R 2	目標	進捗																				
夜間急病センター受診者数	1,788	238	1,800	停滞																					
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度はコロナの影響で大きく目標を下回っています。なお、令和元年度における夜間急病センターの受診者数は、1,258人です。 夜間急病センターの利用はインフルエンザ等の感染症流行により増減しますが、受診者数がある程度横ばいになってきているため、市民への周知は一定程度進んだものと評価できます。二次救急の負担軽減のためにも、今後も継続的な運営が必要です。 コロナの克服に向けては、医療機関に加え福祉団体、企業等の連携の充実、強化が必要です。 福祉医療制度に関しては、制度として定着していますが市の財政負担が大きく、受給資格の範囲拡大については、検討課題となっています。 																									
<p>③高齢者福祉の充実</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康長寿のまちづくり推進事業補助金交付団体数（団</td> <td>38</td> <td>75</td> <td>60</td> <td>順調</td> </tr> <tr> <td>介護予防のための自主活動グループ数（グループ）</td> <td>201</td> <td>255</td> <td>235</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table>	指標	当初	R 2	目標	進捗	健康長寿のまちづくり推進事業補助金交付団体数（団	38	75	60	順調	介護予防のための自主活動グループ数（グループ）	201	255	235	順調									
指標	当初	R 2	目標	進捗																					
健康長寿のまちづくり推進事業補助金交付団体数（団	38	75	60	順調																					
介護予防のための自主活動グループ数（グループ）	201	255	235	順調																					
<ul style="list-style-type: none"> アクティブシニアがんばろう事業は、目標値を大幅に上回って推移しています。介護予防のための自主活動（一般介護予防事業）についても右肩あがりの推移であり、いずれも支援が奏功しているものと評価できます。一時期、コロナ禍で活動を控えている団体もあり課題の1つとなっていましたが、感染予防対策を徹底し、できる範囲で活動を継続されています。 アクティブシニアがんばろう事業は、補助金の支援期間の設定がない点が、団体の 																									

施策名	評価（現状、課題）																				
	<p>継続性や財政の観点からも検討課題となります。検討にあたっては団体の量的、質的な低下につながらないように留意を要します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入浴料金割引券交付事業は、この間の利用状況を踏まえ、見直しを行っています。 高齢化が進み、社会保障費が増えていく中で、高齢者を元気にする取組と生活に必要な事業に集中していく必要があります。 																				
④障がい者福祉の充実	<table border="1" data-bbox="432 488 1350 640"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>障がい者の一般就労移行者数（人）</td> <td>11</td> <td>5</td> <td>18</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>地域生活への移行者数（人）</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>圏域内基幹相談支援センター数（箇所）</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 自立と社会参画の指標として設定した一般就労、地域生活への移行者は、目標値に対し停滞しています。地域生活への移行は、入所者の重度化、高齢化が見られることが主な要因となります。 松本圏域障がい者基幹相談センターについては、令和2年4月に開設しましたので、目標は達成しました。 市の統計によると精神障害者保健福祉手帳の交付状況（総数）は、平成27年782件から令和元年度1,137件と右肩上がりとなっています。就労支援B型、放課後等デイの事業所は増えておりますが、精神障がい関連の施策の強化は必要です。 相談支援体制については、指定特定相談支援事業所が限られるため、障害福祉サービス利用のための計画が適時に作成されない点が課題です。事業所への設置要望等の対応が必要です。 ひきこもり状態にある方への支援について、広報強化により相談数が増加しています。これに伴いひきこもりの方の居場所確保が課題となります。 	指標	当初	R 2	目標	進捗	障がい者の一般就労移行者数（人）	11	5	18	停滞	地域生活への移行者数（人）	3	1	5	停滞	圏域内基幹相談支援センター数（箇所）	0	1	1	順調
指標	当初	R 2	目標	進捗																	
障がい者の一般就労移行者数（人）	11	5	18	停滞																	
地域生活への移行者数（人）	3	1	5	停滞																	
圏域内基幹相談支援センター数（箇所）	0	1	1	順調																	
⑤生活困窮者への支援	<table border="1" data-bbox="432 1357 1386 1440"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活困窮者に対する相談支援件数（件）</td> <td>286</td> <td>842</td> <td>362</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 相談件数は目標値を上回って推移しています。なお、平成30年は311件、令和元年度は330件であり目標値に向け順調に推移している状況です。 令和2年度はコロナの影響で、生活困窮者の相談窓口「まいさば安曇野」には620件、市役所窓口には222件と多くの相談が寄せられています。この状況を受け、生活困窮者自立支援法関連施策は重点的に取り組むべき課題となります。具体的には、生活困窮者自立支援制度の根幹をなす自立相談支援（支援プラン作成含む）、住宅と就労活動を支援するための住居確保給付金、生活困窮世帯の子どもを対象とした子ども学習支援事業となります。 	指標	当初	R 2	目標	進捗	生活困窮者に対する相談支援件数（件）	286	842	362	順調										
指標	当初	R 2	目標	進捗																	
生活困窮者に対する相談支援件数（件）	286	842	362	順調																	
⑥人権の尊重	<table border="1" data-bbox="432 1917 1426 2000"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>審議会・委員会などに占める女性委員の割合</td> <td>26.6</td> <td>28.3</td> <td>35</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 指標は緩やかに増加していますが、目標値に対しては停滞しています。 第4次男女共同参画計画の策定年次です。 	指標	当初	R 2	目標	進捗	審議会・委員会などに占める女性委員の割合	26.6	28.3	35	停滞										
指標	当初	R 2	目標	進捗																	
審議会・委員会などに占める女性委員の割合	26.6	28.3	35	停滞																	

施策名	評価（現状、課題）																				
	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー問題や多文化共生等、コロナやSDGs等を受け、大きく注目されています。 																				
⑦地域福祉の推進	<table border="1" data-bbox="432 353 1331 472"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>避難行動要支援者名簿提供同意率（%）</td> <td>77.6</td> <td>64</td> <td>100</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>ボランティア登録者数（人）</td> <td>3,897</td> <td>3,426</td> <td>4,000</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 要支援者名簿提供同意率、ボランティア登録者数は目標に対し停滞しています。 本施策については、区、社協、民生児童委員、福祉団体、民間事業者等との継続した連携により一定程度、進んでいるものと評価します。 各地で災害が相次いでいることから、防災面での区長と民生児童委員の連携が進んでいます。一方で、高齢者の増加等による対象者の増加に伴い、避難行動要支援者名簿の提供同意率が低下していますので、取組の強化が必要です。 	指標	当初	R 2	目標	進捗	避難行動要支援者名簿提供同意率（%）	77.6	64	100	停滞	ボランティア登録者数（人）	3,897	3,426	4,000	停滞					
指標	当初	R 2	目標	進捗																	
避難行動要支援者名簿提供同意率（%）	77.6	64	100	停滞																	
ボランティア登録者数（人）	3,897	3,426	4,000	停滞																	
⑧出産・子育て支援の充実	<table border="1" data-bbox="432 806 1369 960"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州型自然保育を受ける児童の割合</td> <td>52.0</td> <td>56.4</td> <td>54.0</td> <td>予定以上</td> </tr> <tr> <td>教育・保育における認可施設数（施設）</td> <td>23</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>順調</td> </tr> <tr> <td>乳幼児健診受診率（%）</td> <td>98.4</td> <td>97</td> <td>99.0</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 信州型自然保育と教育・保育の認可施設数は、目標を達成しています。乳幼児健診は、例年高い水準を維持していることに加え、未受診者に対しても個別に対応しています。 3歳未満児の保育所入所希望は、年々増加傾向になります。ニーズと今後の見通しを勘案した上で、小規模保育所の設置を進める必要があります。 認定こども園、幼稚園での保育業務のICT化が研究課題となっています。保護者に対するサービス向上と保育士の負担軽減の観点で、メリットを整理する必要があります。 不安を抱える保護者への対応として、母子・子育て相談や産前産後のケアなど継続した取組が行われています。また、切れ目ない支援のための関係機関との連携も継続して取組むべき事項です。 乳幼児の保護者に配布中のもえるごみ指定袋は9割以上の配布実績となっています。好評の事業ではありますが、コストの選択と集中が求められるなか、施策目的にどの程度の貢献となっているか見極めていく必要はあります。 	指標	当初	R 2	目標	進捗	信州型自然保育を受ける児童の割合	52.0	56.4	54.0	予定以上	教育・保育における認可施設数（施設）	23	29	29	順調	乳幼児健診受診率（%）	98.4	97	99.0	順調
指標	当初	R 2	目標	進捗																	
信州型自然保育を受ける児童の割合	52.0	56.4	54.0	予定以上																	
教育・保育における認可施設数（施設）	23	29	29	順調																	
乳幼児健診受診率（%）	98.4	97	99.0	順調																	

2. 基本目標2 魅力ある産業を維持・創造するまち

足腰の強い魅力ある産業を創造し、活力にあふれた賑わいのあるまちをつくります。

【基本目標に係る評価の概要】

(1) 基本目標の評価

この基本目標に関する数値目標は14項目設定されています。各数値目標の進捗の判定については、

・「予定以上」：0件 ・「順調」：7件 ・「停滞」：5件 ※現段階では把握できず：2件
となりました。

地域活力の創出と若者世代の定着をはかるためには、産業振興が欠かせません。

市が将来都市像として掲げる田園産業都市の実現のため、また、地方創生の施策の柱としても産業振興、雇用創出は、積極的に取り組んでいくべき必要があります。

評価の結果、数値目標のうち「認定農業者数」「新規起業者数」「起業誘致数」が目標に対し順調な推移を示しています。

認定農業者（経営体）は、目標を超え272団体まで伸びています。また、経済センサスや長野県統計書によると、商業関連の事業所数は、平成19年933件から平成28年746件まで減少していますが、年間商品販売額については、同時期で約1,690億円から約1,785億円まで増加しています。製造品出荷額等は、平成26年約3,983億円から令和元年約5,102億円まで増加しています。これらは、多面的機能支払交付金等などの農業関連の支援、商工会等との連携による起業支援、地域未来投資促進法を活用したあづみ野産業団地の拡張、各種商工業助成制度の効果が一定程度、発現したものと評価できます。

令和2年度、コロナという不測の事態の発生を受け、経済対策としてプレミアム商品券の発行や制度資金融資、事業者への各種協力金支給を緊急実施しました。特にコロナの影響を受けた観光面は、旅行者が激減し、好調であったインバウンドはほぼゼロになりました。数値目標「観光消費額」は現在、未発表ですが、令和元年度実績の126億円を大きく割り込むものと推測されます。

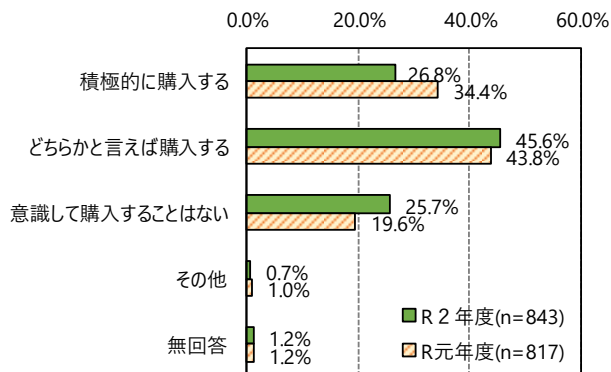
この基本目標に関する主な課題として挙げられるのは、農業関連では、コロナによる「人・農地プランの実質化」（地域での話し合い）の進捗遅れが挙げられます。認定農業者は増加傾向にありますが、農林業センサスによりますと、農林業経営体は平成17年4,730件から平成27年3,214件まで減少、農業従事者の平均年齢は平成27年において69.2歳と高齢化が進行しています。安曇野市農業・農村振興基本計画の改訂では、市の農業を取り巻く課題への的確かつ先手、先手の対処が期待されます。林業については、これまで横ばいであった林業従事者が令和2年度に大幅減となりましたので早急な分析と対策が必要です。加えて、合併来の課題である農林部関連施設の統廃合も重要なテーマです。

商工業に関しては、既存商店街の衰退が懸念となっています。総合計画には「魅力ある個店や商店街づくり」と記載があり、立地適正化計画においても旧町村を中心拠点とする都市の骨格構造が示されています。産業振興に関する具体的な支援について、市が行う商工業助成制度全体のバランスを見る中で検討が必要です。

観光関連施策については、コロナの影響について継続注視しつつ、収束後を見据えた取組にも着手していく必要があります。報道等によりますと、コロナを契機に、アウトドアが注目され人気が高まっているようです。アウトドアや山岳は本市の資源でもあり、観光の復活にあたっての鍵になり得るものと考えます。インバウンドもコロナ前の右肩あがりの水準への回復を想定し、ガイド育成等も受入体制の整備にも取り組むべき内容です。また、コロナで中止となった各種イベント、事業については、単純再開ではなく費用対効果の検証を行った上で再開、手法変更等の決定が求められます。（一社）安曇野市観光協会については、観光のプロフェッシ

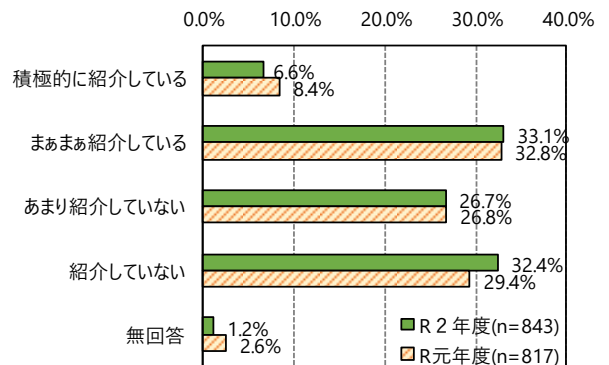
ヨナルが不在の市に代わり、観光全般の底上げを担っていただく組織であるため、同協会との連携の充実強化は、重点的に取り組むべき事項となります。

(2) 基本目標に関する市民意識調査 (サマリー)



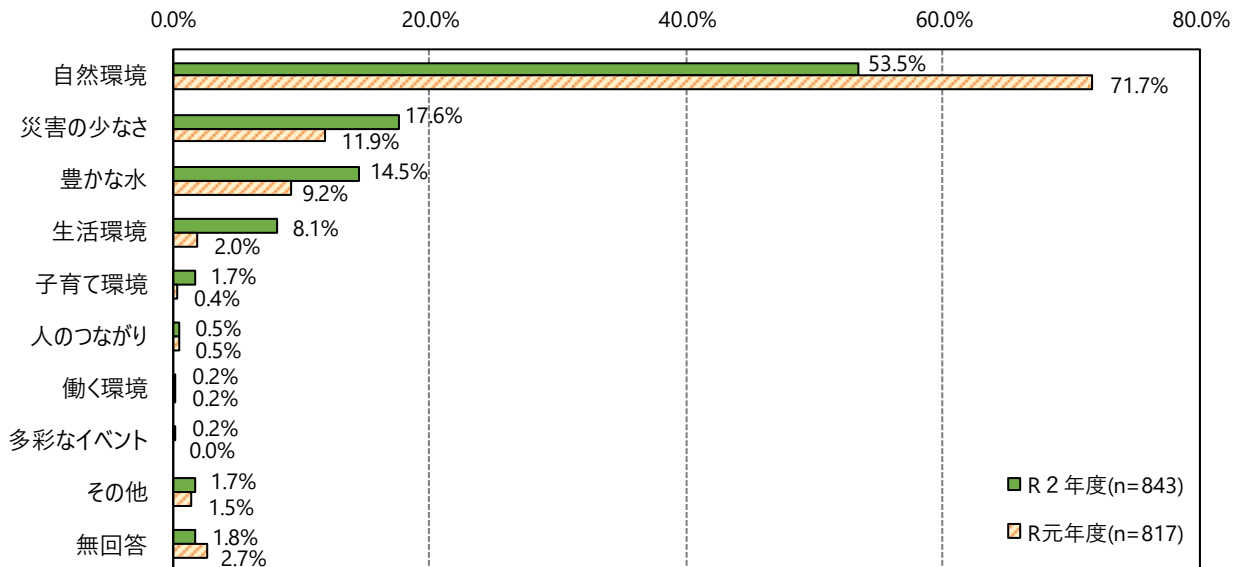
Q：地元の農産物を購入するか

積極的に購入すると回答した人の割合は、前年度と比べると7.6ポイント低下し、「意識して購入することはない」と回答した人は、6.1ポイント増加しています。



Q：安曇野市の魅力を友人等に紹介しているか

紹介している人の割合は、前年度と比べると、「積極的に紹介している」と回答した人の割合は1.8ポイント低下し、「紹介していない」と回答した者の割合は、3.0ポイント増加しています。



Q：市外の友人等に誇れる安曇野市の魅力はなにか

市外の友人等に誇れる安曇野市の魅力について、前年度と比べると、「自然環境」と回答した割合が18.2ポイント低下している一方で、「災害の少なさ」が5.7ポイント、「豊かな水」が5.3ポイント、「生活環境」が6.1ポイント上昇しています。なお、「人のつながり」、「働く環境」、「多彩なイベント」を選択した方は、前年に引き続き1%に満たない結果となりました。

【施策毎の評価の概要】

施策名	評価（現状、課題）																			
<p>⑨農業の振興</p>	<table border="1" data-bbox="432 241 1310 353"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者数（経営体）</td> <td>267</td> <td>272</td> <td>270</td> <td>順調</td> </tr> <tr> <td>集落営農組織数（組織）</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者数は目標値を達成しています。集落営農組織数は横ばいの状況です。 ・高齢化による農業離れ、後継者不足が全国的な懸案ですが、市においては認定農業者が増加傾向にある点は、一定の施策効果は発現できているものと評価できます。 ・市では、「人・農地プランの実質化」の取組として、経営意向アンケートを行い、農地の担い手・集約について各地域での話し合いを予定しましたが、コロナの影響で計画通りには進んでいません。コロナの状況を注視しながら、地域ごとに抱えている具体的な課題と対応方針を決定していく必要があります。 ・第2次農業・農村振興計画の実施策のうち 98%が着手または完了しています。令和3年度は、第3次農業・農村振興基本計画の策定を行うため、過去の取組や課題等を検証し、実効性ある計画としてとりまとめる必要があります。また、策定作業においては、農業振興に係る各種の補助事業についても併せて検討が必要です。行政（市）が担う部分と民間が担う部分を整理し、より施策目的の達成に資する内容としていく必要があります。 ・多面的機能支払交付金については、令和2年度は57組織が事業に取り組んでいます。年々組織数が増えており、財政負担は生じていますが、高齢化・過疎化等農業全般が抱える課題に対処するための取組でもあり継続が必要です。 ・農業関連施設については、「ほりで一ゆ〜四季の郷」や「ファインビュー室山」等、再配置に着手しているところですが、今後も総量を削減する方針で検討、実行していく必要があります。 ・烏川地区のほ場整備事業は、区画整理工事は完了。補完工事、換地に係る手続きを進めています。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	認定農業者数（経営体）	267	272	270	順調	集落営農組織数（組織）	27	27	28	停滞
	指標	当初	R 2	目標	進捗															
認定農業者数（経営体）	267	272	270	順調																
集落営農組織数（組織）	27	27	28	停滞																
<p>⑩林業の振興</p>	<table border="1" data-bbox="432 1462 1310 1574"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>林業従事者数（人）</td> <td>53</td> <td>45</td> <td>57</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>林内路網（m/ha）</td> <td>30</td> <td>32.5</td> <td>31.7</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・林業従事者は、これまで50人以上を維持してきましたが急激な減となっています。森林整備、木材搬出のための林内路網は、目標に達しました。 ・林業従事者の減少要因は明確となっていないので分析が必要です。短期的な食い止めの具体策として、森林整備や松くい虫被害対策の委託を継続する必要があります。 ・里山再生計画は、第一次計画の成果と課題を振り返った上で、令和2年度から第二次計画に移行しています。 ・松くい虫被害対策の方針は、微害地と守るべき松林は徹底駆除、激害地はライフラインの保全に限定します。無人ヘリによる空中散布は費用対効果を考慮し中止します。 ・長峰山森林体験交流センターは、施設の老朽化対応や施設の譲渡等に向けた検討を 					指標	当初	R 2	目標	進捗	林業従事者数（人）	53	45	57	停滞	林内路網（m/ha）	30	32.5	31.7	順調
	指標	当初	R 2	目標	進捗															
林業従事者数（人）	53	45	57	停滞																
林内路網（m/ha）	30	32.5	31.7	順調																

施策名	評価（現状、課題）															
	<p>進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ツキノワグマの人身被害がでないよう猟友会との連携を継続します。また、サルの子への出没が増えていることから今後サル対策の強化が必要となっています。 															
<p>⑪水を活用した産業の振興</p>	<table border="1" data-bbox="432 387 1406 504"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>わさび栽培面積 (ha)</td> <td>31.3</td> <td>32</td> <td>33</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>安曇野わさびの地理的表示 (GI) 取得数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> わさび栽培面積は、目標値に向けて推移しています。わさびの地理的表示 (Geographical Indication) は、登録にあたっての要件が一部適合せず登録困難となっています。総合計画本文の記載事項ではありますが、他の手法による差別化の検討が必要です。 水産資源の確保と釣り客誘致を目的としたニジマス放流事業は、費用対効果の確認が課題となっています。 本施策を推進するための事業が「水産資源拡大補助事業」のみとなっています。市の資源である地下水や湧水の活用した産業振興の観点で新たな一手が期待されます。 	指標	当初	R 2	目標	進捗	わさび栽培面積 (ha)	31.3	32	33	停滞	安曇野わさびの地理的表示 (GI) 取得数	0	0	1	停滞
指標	当初	R 2	目標	進捗												
わさび栽培面積 (ha)	31.3	32	33	停滞												
安曇野わさびの地理的表示 (GI) 取得数	0	0	1	停滞												
<p>⑫商業の振興</p>	<table border="1" data-bbox="432 1030 1406 1146"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規起業者数 (人)</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>順調</td> </tr> <tr> <td>創業支援・人材育成セミナー受講者数 (人)</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>20</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 指標は順調に推移しています。 県統計書によると市内における商業の事業所数は、平成 19 年 933 件に対し平成 28 年は 746 件となっており、減少傾向にあります。 総合計画では「魅力ある個店や商店街づくり」を目指しています。また、立地適正化計画では、旧 5 町村を中心拠点とする都市の骨格構造が示されています。総合戦略の施策として取組んだ空き店舗の活用や若者・女性の創業支援が終了しますが、新たな課題に対応する支援策の検討が必要です。また、検討にあたっては商工業助成制度全体のバランスも考慮する必要があります。 	指標	当初	R 2	目標	進捗	新規起業者数 (人)	6	7	10	順調	創業支援・人材育成セミナー受講者数 (人)	20	22	20	順調
指標	当初	R 2	目標	進捗												
新規起業者数 (人)	6	7	10	順調												
創業支援・人材育成セミナー受講者数 (人)	20	22	20	順調												
<p>⑬工業の振興</p>	<table border="1" data-bbox="432 1626 1310 1700"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企業誘致数 (社)</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 工場用地取得の助成等により目標値を達成しています。 製造品出荷額は、平成 26 年の 3,983 億円から令和元年は 4,592 億円まで伸びてきており、施策の効果は一定程度発現できているものと評価できます。ただし、他産業と同じくコロナの影響は注視を要します。 各種補助金による支援に加え、あづみ野産業団地拡張事業を実施し、新たな企業進出を実現しています。 	指標	当初	R 2	目標	進捗	企業誘致数 (社)	4	2	6	順調					
指標	当初	R 2	目標	進捗												
企業誘致数 (社)	4	2	6	順調												

施策名	評価（現状、課題）																			
<p>⑭労働・雇用対策の推進</p>	<table border="1" data-bbox="432 192 1310 271"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>勤労者互助会の会員数（人）</td> <td>1,214</td> <td>1,504</td> <td>1,300</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・勤労者互助会は、福利厚生事業により地域産業の振興発展と勤労者の福祉向上に寄与しており、会員数は目標値を上回って推移しています。 ・就職後数年での離職を防ぐため就業前の「内定者向けセミナー」就職3年以内の「職場定着セミナー」に取組みました。勤労者の生活資金のあっせんや住宅取得費用の利子補給、福祉事業への補助についても継続的に行っています。 ・令和3年5月の県内有効求人倍率は1.32倍で9か月連続の増加となっていますが、雇用の安定については、労働者が安心して働き、安定した生活を送るために欠かせないテーマとなります。コロナにより、リモートワークが加速するなど多様な働き方やライフ・ワーク・バランスを推進する機会にもなっています。また、少子高齢化への対応として、女性、高齢者等の就労機会の充実を図っていく必要もあります。 ・建設技術者等資格取得費補助金は、建設業の人材育成と人材確保の施策として継続予定となっています。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	勤労者互助会の会員数（人）	1,214	1,504	1,300	順調					
指標	当初	R 2	目標	進捗																
勤労者互助会の会員数（人）	1,214	1,504	1,300	順調																
<p>⑮観光の振興</p>	<table border="1" data-bbox="432 992 1291 1106"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観光消費額（億円）</td> <td>113</td> <td>未確定</td> <td>188</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>外国人宿泊者数（人）</td> <td>15,000</td> <td>未確定</td> <td>25,000</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で、インバウンドはほぼゼロとなり、観光消費額は大きく落ち込むと推測されます。ただし、令和元年度実績値は観光消費額等で126億円、外国人宿泊者数は23,374人を記録しており、連携施策の成果が表れていました。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	観光消費額（億円）	113	未確定	188	-	外国人宿泊者数（人）	15,000	未確定	25,000	-
指標	当初	R 2	目標	進捗																
観光消費額（億円）	113	未確定	188	-																
外国人宿泊者数（人）	15,000	未確定	25,000	-																
<p>⑯戦略的な地域ブランドの創出</p>	<table border="1" data-bbox="432 1350 1254 1429"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>異業種連携による起業数（商品）</td> <td>4</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・異業種連携は目標を上回って推移しています。 ・ただし、令和2年度についてはコロナの影響もあり地域資源活用型連携推進事業補助金の申請実績がありませんでした。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	異業種連携による起業数（商品）	4	12	10	順調					
指標	当初	R 2	目標	進捗																
異業種連携による起業数（商品）	4	12	10	順調																
<p>⑰安曇野ブランド発信の強化</p>	<table border="1" data-bbox="432 1671 1291 1749"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海外輸出農産品（品目）</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の実績はワサビと日本酒です。当初リンゴも計画しましたが、生産量と輸出コストの関係で国内向けの方が有利と判断し見合わせています。令和2年度は農産物の海外向けプロモーション動画を制作し配信しました。また、市の事業としてではなく農業者等による輸出も進んできています。 ・電子媒体を使った情報発信はコロナ禍のなか、有効と判断。観光で3年目の取組となるインスタグラムフォトコンテストは年々フォロワーが増加しています。 ・市ホームページにシティプロモーションページを作成しました。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	海外輸出農産品（品目）	1	2	3	停滞					
指標	当初	R 2	目標	進捗																
海外輸出農産品（品目）	1	2	3	停滞																

3. 基本目標3 自然環境を大切にすまち

豊かで美しい自然環境を守り、快適な生活環境を次代につなぐまちをつくりまします。

【基本目標に係る評価の概要】

(1) 基本目標に対する総合的な評価

基本目標に関する数値目標は8項目設定されています。各数値目標の進捗の判定については、

・「予定以上」：1件 ・「順調」：1件 ・「停滞」：5件 ※現段階では把握できず：1件
となりました。

豊かな自然と文化に囲まれつつ、利便性を併せ持っている点が本市の特色です。この恵まれた環境は、自然や生態系の維持・保全のみならず、本市の住み心地の良さ、社会動態の改善にも寄与しているものと考えられます。

基本方針を取り巻く情勢として、2015年9月に国連サミットで採択されたSDGsが国際的な取組に発展していることを始め、国や長野県においても、2050年カーボンニュートラル（ゼロカーボン）が宣言される等、環境問題の捉え方や対策に関して転換点を迎えているという印象を受けます。

本市の施策においては、現在、関連施策の道標となる環境基本計画、地球温暖化計画、水環境基本計画の見直し時期となっています。地方公共団体の為すべき役割として、この地域における現状と課題を勘案した上で、市民や企業等への啓発と推進主体としての具体的な行動等が求められます。

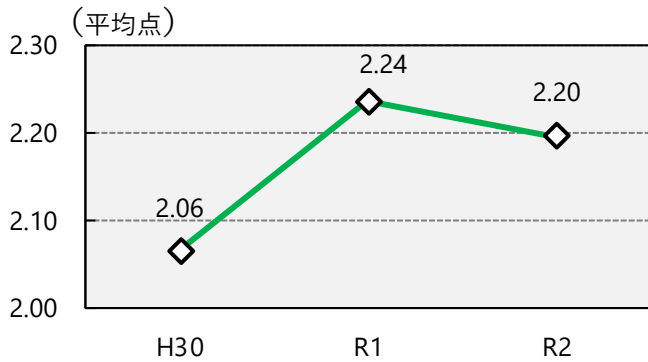
令和2年度行政評価においては、数値目標のうち、「環境学習の参加者数」「特定外来生物駆除活動の参加者数」「1人1日あたりのごみ排出量」について、策定当初の数値すら割り込む結果となっています。これについては、コロナ禍による活動の中止や参加自粛、在宅時間の長期化に起因するものと考えられ、必ずしも施策の後退を示すものではないと捉えています。

主な課題として挙げられるのが、数値目標を達成するための新たな地下水涵養施策、長期にわたり検討されてきた地下水利用者の費用負担ルール、解決の道筋が見出せない三郷地域の畜産臭気対策、新エネルギー・再生可能エネルギーの研究等が挙げられます。

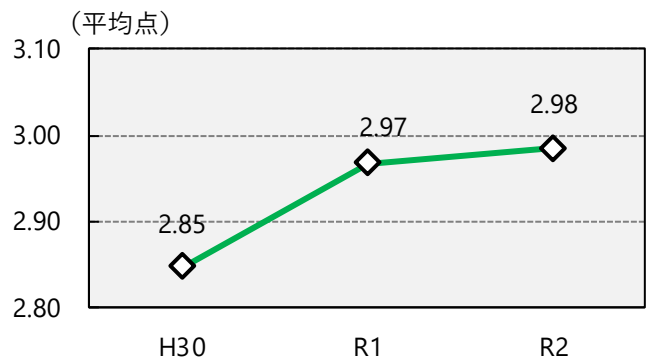
近年、環境政策は、「経済の制約」をもたらす政策ではなく、投資の促進や生産性の向上、産業構造の変革につながるという認識となっています。SDGsは市内企業でも県推進企業の登録が進み、市内学校においても学習に取り入れられ、その理念は、若い世代に確実に浸透しはじめています。この機運は、環境を資源として政策に組み込みまちづくりを進める本市にとっても強い追い風になり得るものと推察されます。

(2) 基本目標に関する市民意識調査 (サマリー)

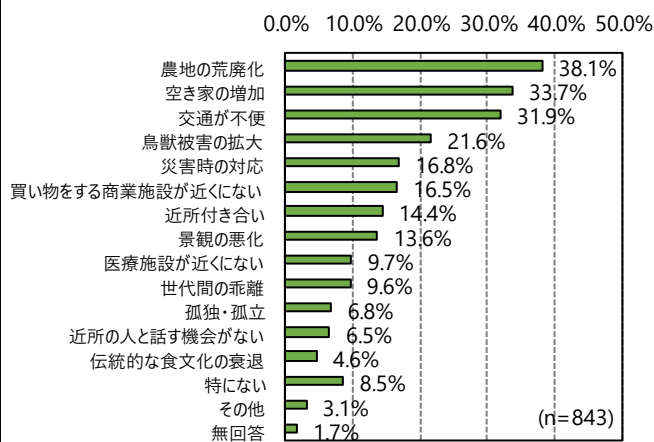
積極的に取り組んでいる = 4点、まあまあ取り組んでいる = 3点、あまり取り組んでいない = 2点、取り組んでいない = 1点として、取組状況の推移を数値化しています。



Q：市街地の緑化や美化活動への取り組み状況

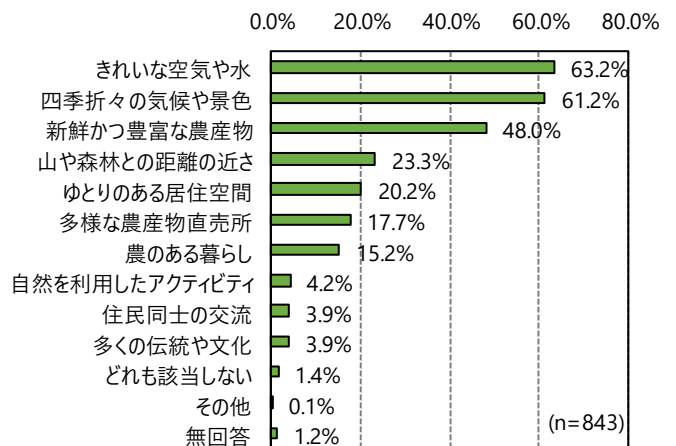


Q：家のまわりの手入れを行うなど、景観を守ることへの取り組み状況



Q：農村社会（地域）で暮らすうえで心配や不安に感じること

農村社会（地域）で暮らすうえで心配や不安に感じることに、**「農地の荒廃化」**が38.1%と最も高く、次いで**「空き家の増加」**が33.7%、**「交通が不便」**が31.9%と続きます。



Q：農村社会（地域）の魅力と感ること

農村社会（地域）の魅力と感ることについて、**「きれいな水」**が63.2%と最も高く、次いで**「四季折々の気候や景色」**が61.2%、**「新鮮かつ豊富な農産物」**が48.0%と続きます。

【施策毎の評価の概要】

施策名	評価（現状、課題）																			
⑱自然環境の保全	<table border="1" data-bbox="432 241 1334 360"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境学習の参加者数（人）</td> <td>248</td> <td>127</td> <td>300</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>特定外来生物駆除活動の参加者数</td> <td>7,790</td> <td>3,068</td> <td>8,000</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で講座、駆除活動の参加者数は停滞しています。 ・台風、コロナにより環境フェアの中止が続いていますが、環境活動の啓発の場として、途絶えることのないよう継続が必要です。 ・令和4年度環境基本計画の中間見直しを実施（10か年計画の5年目）。地球温暖化対策実行計画の統合と、基本計画のアクションプランとなる環境行動計画の策定も必要。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	環境学習の参加者数（人）	248	127	300	停滞	特定外来生物駆除活動の参加者数	7,790	3,068	8,000	停滞
指標	当初	R 2	目標	進捗																
環境学習の参加者数（人）	248	127	300	停滞																
特定外来生物駆除活動の参加者数	7,790	3,068	8,000	停滞																
⑲快適な生活環境の創造	<table border="1" data-bbox="432 741 1369 860"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境美化活動団体数（団体・累計）</td> <td>217</td> <td>358</td> <td>277</td> <td>予定以上</td> </tr> <tr> <td>環境美化活動参加者数（人）</td> <td>34,187</td> <td>35,008</td> <td>36,000</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で一斉清掃の中止もありましたが、目標に対して順調に推移しています。 ・三郷地域の畜産臭気対策は、これまで複数の対策を講じてきましたが解決の決め手がありません。悪臭防止法に基づく対応の継続が必要です。不法投棄についても引続き監視活動と啓発が必要となっています。 ・不法投棄についても引続き監視活動と啓発が必要となっています。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	環境美化活動団体数（団体・累計）	217	358	277	予定以上	環境美化活動参加者数（人）	34,187	35,008	36,000	順調
指標	当初	R 2	目標	進捗																
環境美化活動団体数（団体・累計）	217	358	277	予定以上																
環境美化活動参加者数（人）	34,187	35,008	36,000	順調																
⑳水環境の保全・強化・活用	<table border="1" data-bbox="432 1243 1465 1319"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人為的な地下水涵養量（万リューベ）</td> <td>112.8</td> <td>114.4</td> <td>180.0</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・麦後湛水、新規需要米転作推進により、涵養量は維持していますが、目標に対しては停滞しています。 ・令和3年度水環境基本計画の中間見直しを行っており、この見直しに合わせて長年の課題である費用負担ルール（資金調達）も一定の方向を得る予定です。市民、事業者に対する地下水に関する意識の醸成は継続していく必要があります。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	人為的な地下水涵養量（万リューベ）	112.8	114.4	180.0	停滞					
指標	当初	R 2	目標	進捗																
人為的な地下水涵養量（万リューベ）	112.8	114.4	180.0	停滞																
㉑環境負荷の軽減	<table border="1" data-bbox="432 1704 1465 1823"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1人1日あたりのごみ排出量（g）</td> <td>787</td> <td>801</td> <td>736</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>資源物排出量（t）</td> <td>3,354</td> <td>2,547</td> <td>3,142</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で令和2年度のごみは増加しました。また、令和元年度までのごみ排出量はほぼ横ばいで推移しています。 ・ごみ排出量は、当初の数値からほぼ横ばいで推移しているため、すでに分別の徹底やごみ削減の意識が一定程度浸透してきているとも捉えられます。今後は一段階前に歩を進めた取組として子どもたちの環境学習の充実や、ごみ排出量の多い企業に直接協力を呼びかけるなど目線を変えた取組も必要です。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	1人1日あたりのごみ排出量（g）	787	801	736	停滞	資源物排出量（t）	3,354	2,547	3,142	停滞
指標	当初	R 2	目標	進捗																
1人1日あたりのごみ排出量（g）	787	801	736	停滞																
資源物排出量（t）	3,354	2,547	3,142	停滞																

施策名	評価（現状、課題）														
㊸地球温暖化対策の推進	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="432 255 703 293">指標</th> <th data-bbox="703 255 876 293">当初</th> <th data-bbox="876 255 1043 293">R 2</th> <th data-bbox="1043 255 1235 293">目標</th> <th data-bbox="1235 255 1366 293">進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="432 293 703 367">温室効果ガス総排出量 (市所有施設)</td> <td data-bbox="703 293 876 367">19,885,598kg CO₂</td> <td data-bbox="876 293 1043 367">18,267,139 k g CO₂</td> <td data-bbox="1043 293 1235 367">前年度比 1.0% 以上削減</td> <td data-bbox="1235 293 1366 367">-</td> </tr> </tbody> </table>					指標	当初	R 2	目標	進捗	温室効果ガス総排出量 (市所有施設)	19,885,598kg CO ₂	18,267,139 k g CO ₂	前年度比 1.0% 以上削減	-
	指標	当初	R 2	目標	進捗										
	温室効果ガス総排出量 (市所有施設)	19,885,598kg CO ₂	18,267,139 k g CO ₂	前年度比 1.0% 以上削減	-										
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度実績は前年度に対し-4.5%と目標を達成していますが、コロナの影響による経済活動の停滞も要因として挙げられます。 国県の方針である、2050年脱炭素社会の実現に向け、市としての具体策を打ち出す必要があります。新エネルギー、再生可能エネルギー等の研究についても課題となっています。 															

4. 基本目標4 安全・安心で快適なまち

安全・安心で、一人ひとりが心穏やかに暮らせる快適なまちをつくります。

【基本目標に係る評価の概要】

(1) 基本目標の評価

この基本目標に関する数値目標は17項目設定されています。各数値目標の進捗の判定については、

・「予定以上」：0件 ・「順調」：10件 ・「停滞」：7件

となりました。

本市は、地方都市にも関わらず社会動態の好調を長年維持している点が特徴です。コロナ拡大後、人口の東京一極集中に変化の兆しがあります。移住の地・定住の地として選ばれるには、災害に強く質の高いインフラ、事件や事故のない安全さ、計画的で良好な景観を有するまちであり続けることが大きな条件となります。

主な成果は、例えば、自主防災組織による実践的な訓練の実施、浸水想定区域図の見直し（1000年に1回程度の降雨を想定）、旧耐震基準の建物の耐震化、白金地区の内水対策、明科駅前都市再生整備計画事業などコロナの影響を受けつつも概ね順調な進捗となっています。

道路橋梁、河川、上下水道等のインフラ整備については、各個別計画や地元要望等に基づき優先度の高いものから取組が進められています。全国と同じく本市においても、インフラの老朽化が課題となる中で、社会資本総合整備交付金や有利な地方債を検討し、最大限活用するという基本の手順が徹底されています。また、市が政策的に取組む自転車活用に関しては、サイクリングコースに矢羽根と看板を設置しました。

公共交通は、検討事項であった巡回バスについて地域公共交通協議会の部会で検討し、結論段階まで進むことができました。

市の土地利用制度は、従来の方針を踏襲しつつ、所要の改正を行い、令和3年7月より施行されています。

空き家問題についても発生予防、適正管理、利活用、解消の観点で着実に取組が進められています。

交通事故発生件数は、コロナによる外出自粛も影響し、目標を大幅に超えた進捗となりました。ただし、コロナ収束後に元の水準に戻ることに留意する必要があります。

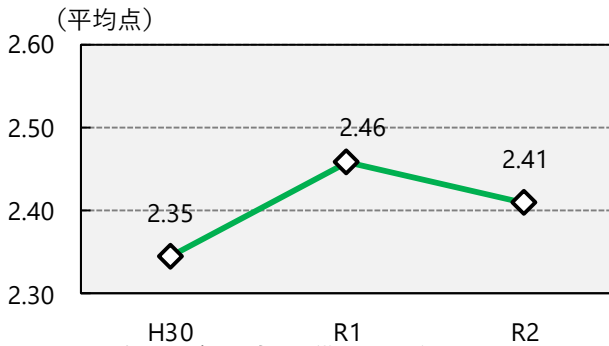
次に主な課題として挙げられるのは、消防団の充実強化に向けたあり方の検討（団員報酬等）、防災用品補助に関する検討、松糸道路のアクセス道路の整備と有効活用等です。

コロナの影響を受けた事項として、土砂災害危険箇所存在区の避難体制づくり、消費者講座が開催出来ていませんので、代替手段等の対応を要します。公共交通の関係では、具体的な課題（予約の取りにくさ、休日運行、到着時間）が示されていますので対応の検討を要します。

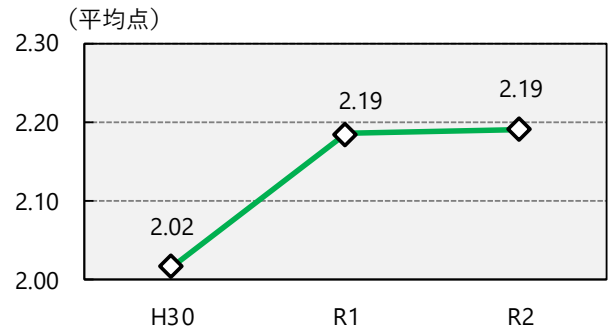
また、好評であった移住者向けのセミナーやツアーはコロナにより全面中止となりました。オンラインの活用等可能な取組のみ継続していますが、コロナ終息後に向けた企画を練る必要があります。定住促進と自然動態の改善のための結婚支援は、カップリングや成婚実績など一定の成果は現れていますが、市の婚姻件数、出生数の顕著な増加をもたらす水準ではありません。自然増への転換は、社会経済状況の影響が大きいと考えますが、市の政策としても関連する施策全体の積上げによって、少しでもプラスの効果を生み出すためのチャレンジが必要です。

(2) 基本目標に関する市民意識調査 (サマリー)

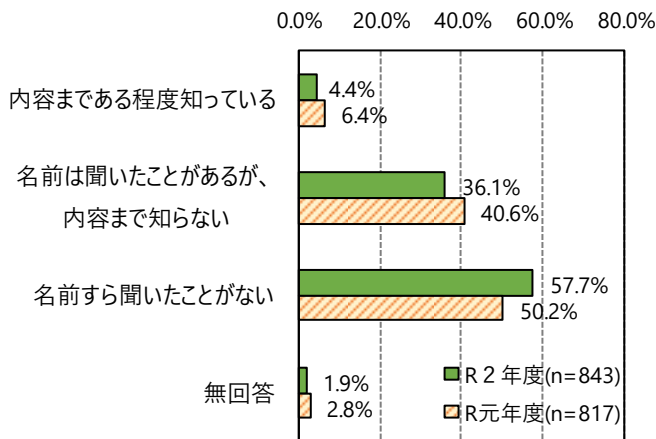
積極的に取り組んでいる = 4点、まあまあ取り組んでいる = 3点、あまり取り組んでいない = 2点、取り組んでいない = 1点として、取組状況の推移を数値化しています。



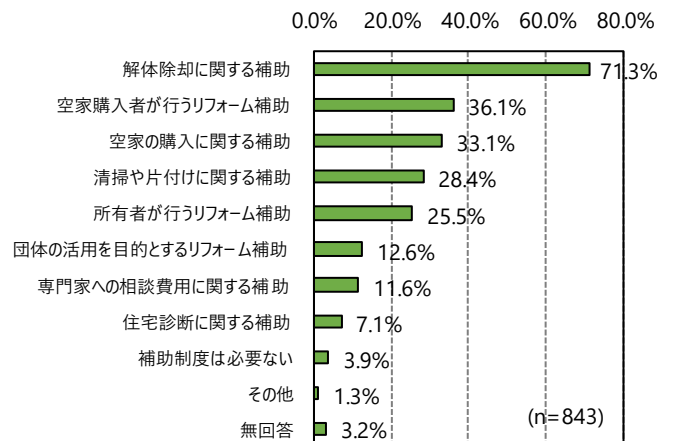
Q：地震や台風などの災害への備えの取組み状況



Q：地域の自主的な防災活動への取組み（参加）状況



Q：安曇野市の土地利用に関する条例や計画を知っているか
「市の適正な土地利用に関する条例」や「市土地利用基本計画」について、「名前すら聞いたことがない」と回答した人の割合は、前年に比べて5.7ポイント上昇しています。



Q：空き家問題の解決のために必要な補助制度は？
「解体除去に関する補助」が71.3%と最も高く、次いで「移住者や空家購入者が行うリフォーム補助」が36.1%、「空家の購入に関する補助」が33.1%と続きます。

【施策毎の評価の概要】

施策名	評価（現状、課題）																			
<p>㊸防災体制の充実</p>	<table border="1" data-bbox="432 241 1329 320"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防災訓練参加者数（人）</td> <td>9,294</td> <td>2,093</td> <td>12,000</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災組織を中心とした実践的な訓練にシフトしたため目標値に対しては停滞しています。自然災害の頻発・激甚化への対応として一般市民の訓練参加も検討すべき課題となっています。 ・ 移動、同報系無線について、今後も継続利用するため多重無線装置（FWA）の更新が必要です。また、防災用品の補助は、令和4年度終了予定であり、効果検証の時期となっています。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	防災訓練参加者数（人）	9,294	2,093	12,000	停滞					
指標	当初	R 2	目標	進捗																
防災訓練参加者数（人）	9,294	2,093	12,000	停滞																
<p>㊹消防・救急体制の充実</p>	<table border="1" data-bbox="432 705 1465 808"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消防団協力事業所表示制度における協力事業所数（事業所）</td> <td>51</td> <td>49</td> <td>65</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協力事業所は、事業所に消防団員がいなくなったなどの理由で目標値に対し停滞しています。 ・ 消防団の年額、出動報酬に関する国の基準が示されています。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	消防団協力事業所表示制度における協力事業所数（事業所）	51	49	65	停滞					
指標	当初	R 2	目標	進捗																
消防団協力事業所表示制度における協力事業所数（事業所）	51	49	65	停滞																
<p>㊺治山・治水事業の推進</p>	<table border="1" data-bbox="432 1052 1465 1167"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土砂災害危険個所存在区における避難体制づくりの取組率（%）</td> <td>12.0</td> <td>43.8</td> <td>48.5</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指標は、コロナにより関係区でのワークショップが開催できず停滞しています（令和元年度と同値）。ただし、目標値に向けては概ね順調な推移です。 ・ 近年、集中豪雨や台風による河川の氾濫が多くなっています。災害につよいまちづくりに向け、河川・砂防事業の強化が必要です。白金地区の内水対策（バイパス水路と避難計画策定）については、計画的に進められています。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	土砂災害危険個所存在区における避難体制づくりの取組率（%）	12.0	43.8	48.5	停滞					
指標	当初	R 2	目標	進捗																
土砂災害危険個所存在区における避難体制づくりの取組率（%）	12.0	43.8	48.5	停滞																
<p>㊻防犯・交通安全の推進</p>	<table border="1" data-bbox="432 1500 1273 1655"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市内の交通事故（人身事故）発生件数の増減率（%）</td> <td>-1.1</td> <td>-4.5</td> <td>-1.1</td> <td>順調</td> </tr> <tr> <td>市内の刑法犯認知件数（件・暦年）</td> <td>469</td> <td>324</td> <td>378</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事故発生件数、刑法犯認知件数ともに目標値に対し順調な結果となりました。交通事故についてはコロナに伴う外出自粛も一因と思われます。 ・ 区やPTAからの要望により、緊急性、必要性を確認した上で交通安全施設の整備が進められています。 ・ 市が目指す「自転車を活用したまちづくり」の推進にあたっては、自転車の交通安全が事業推進の前提となります。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	市内の交通事故（人身事故）発生件数の増減率（%）	-1.1	-4.5	-1.1	順調	市内の刑法犯認知件数（件・暦年）	469	324	378	順調
指標	当初	R 2	目標	進捗																
市内の交通事故（人身事故）発生件数の増減率（%）	-1.1	-4.5	-1.1	順調																
市内の刑法犯認知件数（件・暦年）	469	324	378	順調																

施策名	評価（現状、課題）																			
㉗消費者保護の推進	<table border="1" data-bbox="432 197 1445 309"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消費者講座回数（回）</td> <td>13</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>消費者講座参加者数（人）</td> <td>437</td> <td>36</td> <td>500</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul data-bbox="432 320 1487 450" style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により、出前講座等開催ができず実績減となっています。 ・年々巧妙化する悪質商法、特殊詐欺へ対応していくため、相談員のスキルアップは常に図っていく必要があります。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	消費者講座回数（回）	13	2	15	停滞	消費者講座参加者数（人）	437	36	500	停滞
指標	当初	R 2	目標	進捗																
消費者講座回数（回）	13	2	15	停滞																
消費者講座参加者数（人）	437	36	500	停滞																
㉘秩序あるまちづくりの推進	<table border="1" data-bbox="432 555 1331 629"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>都市計画道路整備率（％）</td> <td>33.4</td> <td>36.1</td> <td>35.4</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul data-bbox="432 640 1487 913" style="list-style-type: none"> ・都市計画道路整備率は、目標値を上回りました。 ・人口減少、少子高齢化への対応としてコンパクトで利便性の高いまちづくりを進めています。またアルプスの麓に広がる「安曇野らしさ」を保持するための規制も必要です。 ・改正後の土地利用制度が令和3年7月、施行となります。 ・都市計画道路「吉野線」は、予定通り完了見込みです。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	都市計画道路整備率（％）	33.4	36.1	35.4	順調					
指標	当初	R 2	目標	進捗																
都市計画道路整備率（％）	33.4	36.1	35.4	順調																
㉙景観の保全と育成の推進	<table border="1" data-bbox="432 1019 1331 1093"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>景観づくり講座開催回数（回・</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul data-bbox="432 1104 1487 1424" style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により、出前講座等開催ができず停滞しています。 ・景観条例に基づく届け出、屋外広告物条例に基づく許可により、景観の保全が図られています。また、パトロールにより手続き未了案件の早期発見や指導も行っています。 ・景観形成団体への支援についても取組の維持、増加の観点から継続が必要です。 ・緑のまちづくり事業（記念樹交付、生垣設置補助）については、給付対象を見直して5年間継続することになりました。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	景観づくり講座開催回数（回・	0	1	5	停滞					
指標	当初	R 2	目標	進捗																
景観づくり講座開催回数（回・	0	1	5	停滞																
㉚良質な住環境の整備	<table border="1" data-bbox="432 1527 1294 1639"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐震診断戸数（戸・累計）</td> <td>534</td> <td>1,044</td> <td>1,094</td> <td>順調</td> </tr> <tr> <td>耐震改修戸数（戸・累計）</td> <td>102</td> <td>178</td> <td>192</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul data-bbox="432 1650 1487 2112" style="list-style-type: none"> ・対象住宅への直接案内が奏功し、目標値に向けて順調に推移しています。 ・令和2年度には耐震改修促進計画Ⅱ期をⅢ期に改訂し、耐震化率の目標を令和7年度末92%として取組むこととしています。公営住宅や耐震改修は住宅行政の基本であることから、今後も計画的に進めていく必要があります。 ・空家問題については、発生予防、適正管理、利活用、特定空家の解消の観点で、総合的な対策の継続が必要です。地域再生法による農地付き空き家の流通促進に関しても国等の調整を進めます。 ・市の公園管理について、都市計画課での一元管理となり、効率的な管理運営がなされています。公園施設の長寿命化について交付金を活用し施設更新が進められています。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	耐震診断戸数（戸・累計）	534	1,044	1,094	順調	耐震改修戸数（戸・累計）	102	178	192	順調
指標	当初	R 2	目標	進捗																
耐震診断戸数（戸・累計）	534	1,044	1,094	順調																
耐震改修戸数（戸・累計）	102	178	192	順調																

施策名	評価（現状、課題）																			
㊸安定した水道・下水道事業の運営	<table border="1" data-bbox="432 197 1331 309"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主要管路耐震化率（%）</td> <td>22.5</td> <td>32.1</td> <td>49.9</td> <td>順調</td> </tr> <tr> <td>水洗化率（%）</td> <td>81.9</td> <td>86.3</td> <td>88.9</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul data-bbox="432 320 1495 734" style="list-style-type: none"> ・指定避難所等重要給水施設への給水ルートの耐震化、水洗化率ともに目標値に向け順調に推移しています。 ・上下水道事業は公営企業会計として、継続性と経営の安定化を図っていく必要があるため、繰出基準に基づく一般会計からの負担に加え、料金、使用料収入の確保を継続的に図っていく必要があります。また、水道ビジョン、下水道事業経営戦略の策定にあたっては、今後の人口減少による収入減少等も織り込んでおく必要があります。 ・明科地域の処理場（農集排、単独公共下水道事業の明科処理区）は流域下水道に統合する方針で進められています。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	主要管路耐震化率（%）	22.5	32.1	49.9	順調	水洗化率（%）	81.9	86.3	88.9	順調
指標	当初	R 2	目標	進捗																
主要管路耐震化率（%）	22.5	32.1	49.9	順調																
水洗化率（%）	81.9	86.3	88.9	順調																
㊹移住・定住の促進	<table border="1" data-bbox="432 840 1294 913"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>移住支援による移住者数（世）</td> <td>20</td> <td>138</td> <td>60（累）</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul data-bbox="432 925 1495 1294" style="list-style-type: none"> ・指標は目標値を上回って推移しています。 ・移住希望者個人々人に対し、きめ細かなサポートを実施していますが、人的コストが大きいため費用対効果が課題です。 ・東京一極集中に変化の兆しがあります。観光・インバウンド等との施策連携の 프로모ーションが必要です。 ・自然動態の改善に向けた施策として、結婚の機会づくりに取り組んでおり、一定の成果は現れていますが、顕著な婚姻件数の増加はみられません。出産・子育て関連の施策も取り組んできておりますが、自然増に転換するまでの効果は表れていません。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	移住支援による移住者数（世）	20	138	60（累）	順調					
指標	当初	R 2	目標	進捗																
移住支援による移住者数（世）	20	138	60（累）	順調																
㊺道路整備の推進	<table border="1" data-bbox="432 1400 1410 1512"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市道舗装率（%）</td> <td>75.6</td> <td>76.7</td> <td>77.5</td> <td>順調</td> </tr> <tr> <td>歩道整備率（改良済5.5m以上）（%）</td> <td>70.5</td> <td>70.4</td> <td>72.7</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul data-bbox="432 1523 1495 1843" style="list-style-type: none"> ・市道舗装率と歩道整備率はいずれも順調に推移しています。 ・道路・橋梁に関する計画、要望等に基づく道路整備について、社会資本整備総合交付金や地方債の組合せにより、計画的・効率的な道路整備が進められているものと評価できます。長期的な課題として、松糸道路のアクセス道路の整備と有効活用が挙げられます。 ・市が目指す「自転車を活用したまちづくり」の一環として、サイクリングコースの整備が順調に進んでいます。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	市道舗装率（%）	75.6	76.7	77.5	順調	歩道整備率（改良済5.5m以上）（%）	70.5	70.4	72.7	順調
指標	当初	R 2	目標	進捗																
市道舗装率（%）	75.6	76.7	77.5	順調																
歩道整備率（改良済5.5m以上）（%）	70.5	70.4	72.7	順調																

施策名	評価（現状、課題）									
⑭公共交通の充実	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="432 197 932 230">指標</th> <th data-bbox="932 197 1043 230">当初</th> <th data-bbox="1043 197 1155 230">R 2</th> <th data-bbox="1155 197 1267 230">目標</th> <th data-bbox="1267 197 1406 230">進捗</th> </tr> </thead> </table>					指標	当初	R 2	目標	進捗
	指標	当初	R 2	目標	進捗					
	<table border="1"> <tbody> <tr> <td data-bbox="432 230 932 275">「あづみん（デマンド交通）」の利用者数</td> <td data-bbox="932 230 1043 275">85,365</td> <td data-bbox="1043 230 1155 275">75,970</td> <td data-bbox="1155 230 1267 275">88,000</td> <td data-bbox="1267 230 1406 275">停滞</td> </tr> </tbody> </table>					「あづみん（デマンド交通）」の利用者数	85,365	75,970	88,000	停滞
「あづみん（デマンド交通）」の利用者数	85,365	75,970	88,000	停滞						
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる外出機会の減少を受けて、指標の進捗は停滞しています。なお、平成30年度は86,273人、令和元年度は86,681人であり横ばいの状況です。 ・デマンド交通あづみんは、ドアトゥドアのメリットにより、高齢者や障がい者の方を中心に欠かせない交通手段として定着しています。ただし、予約の取りにくさ、休日運行、到着時間の不安定等が今後の改善事項となっています。 ・定時定路線は、利用状況を踏まえ令和3年7月より運行ルートの変更、ダイヤ増便を行いました。変更後の利用状況については今後確認していく必要があります。 ・巡回バスの検討については、地域公共交通協議会の部会で検討し、結論を得ました。 ・明科駅周辺の都市再生整備計画事業は、国道19号明科駅前歩道整備事業と歩調を合わせ進めています。事業完了は令和4年度を予定しています。 										

5. 基本目標5 学び合い 人と文化を育むまち

人と人が幅広く活発に交流し、豊かな人間性と文化を育むまちをつくります。

【基本目標に係る評価の概要】

(1) 基本目標の評価

この基本目標に関する数値目標は12項目設定されています。各数値目標の進捗の判定については、

・「予定以上」：0件 ・「順調」：2件 ・「停滞」：10件
となりました。

総合計画では、深い教養と社会性を備えた豊かな人を育むまちづくりを重点テーマとし、教育と学習の両面に取組む方針を取っています。

コロナへの対応として、所管施設での感染対策の徹底を始め、給食費の減免、GIGAスクールの推進等多数の対策を講じました。数値目標に設定していたイベントや講座などの指標は、安全面を考慮し大半を開催の見送り又は縮小としたため未達成となっています。また、お船祭りの文化財指定のための国（文化審議会）の調査及び長野県と東京藝術大学の連携事業であるアーティスト・イン・レジデンス、東京2020オリンピック・パラリンピックの観戦ツアー含めホストタウン事業等も見送りとなっています。

基本目標の主な成果として、大型事業であったGIGAスクール構想による1人1台端末の配備が完了しました。導入済みの電子黒板と合わせた活用により主体的に学ぶ学習の展開が期待されます（要検証）。

児童クラブは、課題であった小学校6年生までの要件緩和に着手しました。児童クラブは運営可能な施設の確保がネックのため、今後も地域の状況を考慮しながら可能な箇所からの拡大を目指します。

新総合体育館は順調に工事が進んでおり、指定管理者およびネーミングライツパートナーも決定しました。令和3年4月2日には感染拡大に配慮しつつ、聖火リレーを実施しました。

芸術文化活動は、市史編さんの着手、バーチャルミュージアムの開設、各種出版物の発行等、コロナ禍でも可能な取組について進められています。コロナ禍であり予定した事業が中止となるなか、小学校へのアウトリーチ講演（音楽）は好評でした。

主な課題として、数値目標「不登校の割合」の増加が挙げられます。主な増加要因は、平成30年に不登校の定義の要件緩和の影響を受けたものですが、令和2年度においては187人となっており、配慮を要する児童・生徒に寄り添った対応の継続が必要となっています。

また、コミュニティスクールは、学校の運営方針や実情を事業に反映するため国型コミュニティスクールへの移行の方向で調整しています。

放課後子ども教室の登録率は、現状順調に推移していますが、コーディネーター、サポーターの固定化等の課題があるため、保護者世代の参加も進めていく必要があります。

スポーツ活動の関係では、コロナにより市民スポーツ祭等の中止があり、スポーツ習慣の継続が課題となっています。以前からの課題であったスポーツ教室終了後も同様です。新総合体育館も間もなく供用開始となりますので、末永く市民に利用いただくための努力が求められます。

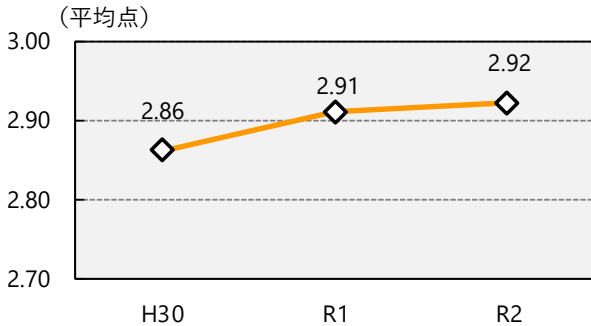
図書館利用者、貸出冊数を引き上げるためには、一度も図書館を利用したことのない市民に対する声掛けが必要です。コロナで在宅時間は増えていることから、読書習慣のない方に、本に触れ、学習するための好機といえます。リピートしてもらえる館の運営と合わせ、まずは来館を促すための試みが課題と考えられます。

また、教育部所管施設においても、老朽化や長寿命化、統廃合が課題です。新総合博物館構想についても検

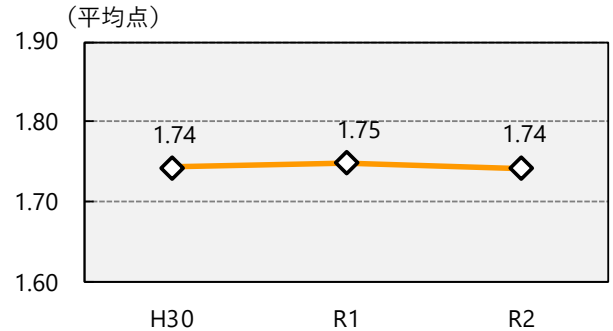
討の継続が必要です。

(2) 基本目標に関する市民意識調査 (サマリー)

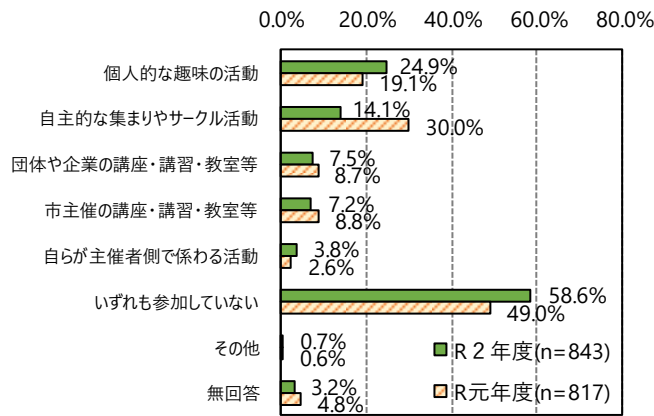
満足 = 4 点、やや満足 = 3 点、やや不満 = 2 点、不満 = 1 点として、満足度 (取り組み状況) の推移を数値化しています。



Q：小中学校の教育に対する満足度

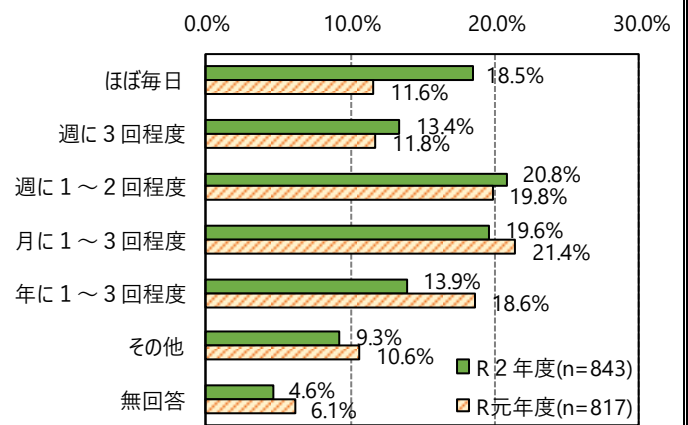


Q：地域の子供の健全育成の取り組み状況



Q：参加している生涯学習

ここ2、3年のうち参加している生涯学習について、前年度と比べると、「個人的な趣味の活動」の割合が5.8ポイント上昇している一方で、「自主的な集まりやサークル活動」の割合が15.9ポイントと大きく低下し、「いずれも参加していない」と回答した者の割合は、9.6ポイント上昇しています。これは、コロナ禍による影響が推察されます。



Q：運動・スポーツの頻度

運動・スポーツの頻度について、前年度と比べると、「ほぼ毎日」と回答した者の割合は6.9ポイント、「週に3回程度」と回答した者の割合は1.6ポイント上昇しており、運動・スポーツを行う機会の増加がうかがえます。

【施策毎の評価の概要】

施策名	評価（現状、課題）																							
<p>③⑤学校教育の充実</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不登校の割合（％）</td> <td>1.3</td> <td>2.6</td> <td>0.5</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>学習支援等ボランティア登録数（人）</td> <td>400</td> <td>163</td> <td>600</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table>					指標	当初	R 2	目標	進捗	不登校の割合（％）	1.3	2.6	0.5	停滞	学習支援等ボランティア登録数（人）	400	163	600	停滞				
	指標	当初	R 2	目標	進捗																			
	不登校の割合（％）	1.3	2.6	0.5	停滞																			
	学習支援等ボランティア登録数（人）	400	163	600	停滞																			
<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の割合は、H30年の不登校の定義が緩和された影響で増加傾向にあります。令和2年度は187人です。ボランティア登録数は、目標に対し停滞しています。 ・児童、生徒が地域の大人との交流を通じ生きる力を育むため「国型コミュニティスクール」への移行が予定されています。推進にあたって、事業の中核となる学校応援隊について市民への周知等が必要となります。 ・GIGA スクール構想による1人1台端末の配備が完了したため、電子黒板と合わせた有効活用が期待されます。 ・市費加配により、配慮を要する児童・生徒に寄り添った個別の対応を行っています。この対応により周りの児童・生徒にとっても落ち着いた学習環境で生活することにつながり、学校全体の生活力、学習力を高める基盤となっています。 																								
<p>③⑥青少年の健全育成</p>																								
					<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放課後子ども教室登録率（％）</td> <td>18.5</td> <td>19.5</td> <td>20.0</td> <td>順調</td> </tr> <tr> <td>青少年体験型講座数及びリーダー養成講座数（回）</td> <td>19</td> <td>18</td> <td>26</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table>					指標	当初	R 2	目標	進捗	放課後子ども教室登録率（％）	18.5	19.5	20.0	順調	青少年体験型講座数及びリーダー養成講座数（回）	19	18	26	順調
					指標	当初	R 2	目標	進捗															
					放課後子ども教室登録率（％）	18.5	19.5	20.0	順調															
青少年体験型講座数及びリーダー養成講座数（回）	19	18	26	順調																				
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室登録率は、順調に推移しています。青少年体験型講座等はコロナの影響で回数減となりました。 ・放課後子ども教室は、市内10校で延べ82回開催。参加延べ人数は6,935人となりました。年間の実施回数、参加人数をいかに増やしていくかが検討課題となっています。青少年体験型講座等についても参加人数を増やすための見直しが必要です。 ・児童クラブについては、保護者の就労増を受け利用児童数も増えている状況となっています。地域毎の児童数を予測しつつ、受入枠の確保を図っていく必要があります。現行の4年生から6年生までの利用拡大、入所要件の緩和が課題となっています。 																								
<p>③⑦生涯学習の推進</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習講座参加者数（人）</td> <td>22,674</td> <td>7,313</td> <td>23,000</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>図書館利用者数（人）</td> <td>212,808</td> <td>190,239</td> <td>228,000</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table>					指標	当初	R 2	目標	進捗	生涯学習講座参加者数（人）	22,674	7,313	23,000	停滞	図書館利用者数（人）	212,808	190,239	228,000	停滞				
	指標	当初	R 2	目標	進捗																			
	生涯学習講座参加者数（人）	22,674	7,313	23,000	停滞																			
図書館利用者数（人）	212,808	190,239	228,000	停滞																				
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で生涯学習講座参加者、図書館利用者ともに例年より低調となりました。なお、令和元年度の図書館利用者数は237,305人であり目標値を上回っていました。 ・交流学習センターや公民館等文化施設等、生涯学習の拠点整備が進んでいます。令和2年度はコロナ対策を徹底した上で講座等を開催しました。オンラインでの生涯学習講座にも取り組んでいます。 ・図書館については、年度始めに通常開館ができなかった時期もあり年間貸出数は前 																								

施策名	評価（現状、課題）															
	<p>年比 82%程度となりました。図書館の方針としている、市内5つの図書館が特色を生かした特色ある資料収集を行うこと、また、利用したことのない市民への呼びかけの工夫を具体的に進めていく必要があります。</p>															
<p>㊸スポーツ活動の充実</p>	<table border="1" data-bbox="432 387 1329 526"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県・国レベルのスポーツ大会の開催件数（件）</td> <td>38</td> <td>16</td> <td>40</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>体育施設利用者数（人）</td> <td>666,494</td> <td>540,328</td> <td>700,000</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響でスポーツ大会の開催件数、体育施設利用者数ともに例年より低調となりました。なお、令和元年度の体育施設利用者数は816,369人であり目標値を上回っていました。 ・市民スポーツ祭は、コロナにより総合開会式は中止。種目別協議会は5種目の実施に留まりました。スポーツ教室は、前期は中止し後期のみ実施しました。教室の参加率は90%と高く、制約の中にありましたがスポーツの推進は一定程度できたものと評価できます。 ・スポーツ教室終了後も運動習慣が継続する仕掛けが課題となっています。サークル活動や総合型地域スポーツクラブへの加入等自主的、継続的に活動しやすい環境づくりが必要です。 ・防災拠点としての機能も併せ持つ新総合体育館が間もなく竣工します。運営を担う指定管理者やネーミングライツパートナーも決定しました。今後、備品搬入や供用開始に係る各種催しなどが控えています。ハード事業としては終了しますが、末永く多くの市民に利用していただける体育館とするため、ソフト面での継続的な工夫が必要です。 ・市が政策的に進める自転車活用のまちづくりについて、マウンテンバイクコースの活用等に取り組む必要があります。 	指標	当初	R 2	目標	進捗	県・国レベルのスポーツ大会の開催件数（件）	38	16	40	停滞	体育施設利用者数（人）	666,494	540,328	700,000	停滞
指標	当初	R 2	目標	進捗												
県・国レベルのスポーツ大会の開催件数（件）	38	16	40	停滞												
体育施設利用者数（人）	666,494	540,328	700,000	停滞												
<p>㊹芸術文化活動の推進</p>	<table border="1" data-bbox="432 1485 1348 1601"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術・文化講座などの参加者数</td> <td>14,844</td> <td>4,026</td> <td>15,000</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>美術館・博物館などの入場者数</td> <td>78,096</td> <td>28,628</td> <td>80,000</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で、芸術、文化講座の中止や延期、事業縮小が相次いだため参加者、入場者数は大幅減となっています。美術館・博物館の入場者や、講座の参加者数は、開催する企画の内容により大きく変動します。単純に利用者数が多い企画が良いとも言えない部分もあり、入場者数だけを指標としていることも今後の検討課題です。 ・令和2年度は、市史編さんの着手、バーチャルミュージアムの開設、出版物刊行（風土記Ⅳ、ブックレット、博物館等紀要、穂高の宝等）を実施しました。 ・新市立博物館構想は、9館を博物館グループと美術館グループに集約し、基幹博物館、基幹美術館がそれぞれのグループを統括していく方向となっています。財政状況も踏まえ、既存の空き施設の活用も視野に検討の継続が必要です。 	指標	当初	R 2	目標	進捗	芸術・文化講座などの参加者数	14,844	4,026	15,000	停滞	美術館・博物館などの入場者数	78,096	28,628	80,000	停滞
指標	当初	R 2	目標	進捗												
芸術・文化講座などの参加者数	14,844	4,026	15,000	停滞												
美術館・博物館などの入場者数	78,096	28,628	80,000	停滞												

施策名	評価（現状、課題）				
④⑩交流活動の推進	指標	当初	R 2	目標	進捗
	市民団体が主催する国際交流事業数（回）	5	2	7	停滞
	市民団体が主催する国内友好交流都市などの交流事業数（回）	6	1	8	停滞
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナにより、交流事業はほぼ全て中止となっています。会議等はオンラインや書面会議により対応しますが見通しが立たず対応に苦慮する状況に苦慮しています。実績として、各友好都市との過去の交流をまとめた記念誌を作成しました。また、友好都市間のイベント等の物販について、これまでは市も対応してきましたが市民同士のやりとりによる物販の仕組みが整いました。 ・令和2年度にクラムザッハ訪問団が来訪予定でしたが、コロナのため見送りとなりました。クラムザッハとの交流については、先方と連絡調整をスムーズにできる人材や関係性の構築が必要となっています。また、若い世代の交流も進むよう支援していく必要があります。 ・ホストタウンとして計画した東京 2020 オリンピック・パラリンピックの観戦ツアーは中止しました。コロナ禍でも可能なパネル展、松本山雅の紹介動画、ホストタウン給食等に取り組んでいます。 				

6. 基本計画推進に当たっての経営方針

前期基本計画の5つの経営方針

- ・方針1 協働によるまちづくりの推進
- ・方針2 広報・広聴の充実
- ・方針3 地域情報化の推進
- ・方針4 質の高い行政経営の推進
- ・方針5 健全財政の堅持

【基本目標に係る評価の概要】

(1) 経営方針の評価

経営方針に関する数値目標は8項目設定されています。各数値目標の進捗の判定については、

- ・「予定以上」：2件
- ・「順調」：4件
- ・「停滞」：2件

となりました。

「基本計画推進にあたっての経営方針」は、前期基本計画の推進にあたっての基本であり、また、基本構想の実現に向けた基本施策としても位置付けています。各経営方針は、いずれも市政の重要課題である少子高齢化・人口減少への対処（地方創生）、そして本市の行政サービスの維持向上を企図し設定されたものです。

特に、基本目標「協働のまちづくりの推進」については、市政運営の基本原則であることから、市が実施する取組にあたっての前提となる事項であり、深刻化が想定される人口減少に対処するための方策としても継続的、長期的に取組むべきテーマとなります。

また、基本目標「地域情報化の推進」に関しては、国が官民挙げたデジタル化の加速、長野県がDX戦略を打ち出す等、国全体でデジタル化が加速していく動きがあります。ICTは、以前より日進月歩で発達し、変化の激しい分野でありましたが、今後はこれまで以上の変化の波が来るものとし、現段階から体制を整えておく必要があります。地域情報化の推進にあたっては国や県、民間が投資しカバーする部分と市が担うべき部分を整理が必要です。その上で、市民サービス向上の観点で費用対効果が見込めるものは何であるか、絞り込んでいく必要があります。

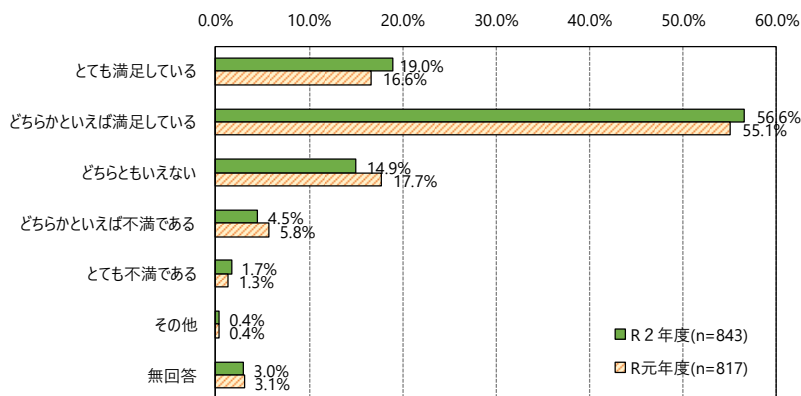
経営方針の主な課題として、

- ・「協働によるまちづくりの推進」においては、区の加入促進の継続、部制度についてもその趣旨を踏まえ区の実情に沿った支援が必要です。また、市民活動サポートセンターも市民活動団体間を横繋ぎするための支援強化も望まれます。
- ・「地域情報化の推進」に関しては、前述の事項に加え、具体的には行政手続きのオンライン化（マイナンバーによる個人認証）と自治体システムの共通化・標準化への対応等となります。
- ・「広報・広聴の充実」については、きめ細かな広聴に基づいて次の施策が紡ぎ出され、その成果を伝える広報をする、という広報と広聴の連動を重視した事務執行が必要です。広聴は、住民に最も近い基礎自治体の大きな役割りとなりますので広聴の機会確保は継続して取組む必要があります。また、広報については、SNSやインターネットなどの多様化するメディアへの対応が継続課題となっています。必要な情報を必要な人につたえるための工夫が求められます。

・「質の高い行政経営の推進」、「健全財政の堅持」は、行政運営にあたっての基本であり前提です。具体的な取組としては、合併以降進めてきている公共施設の統廃合、新たな課題に対応するため絶え間のない行財政改革が挙げられます。

令和2年度市民意識調査では、市の生活に概ね満足していると回答した人が75.6%となりました。調査開始以降、7割以上の方に一定の評価をいただいている一方、年齢別の回答状況では30歳代は58.6%、地域別の回答状況では、堀金地域と明科地域が60%台となっている点は注視すべきです。課題を認識し、市民の満足度を100%に近づけるための工夫と努力を重ねる必要があります。

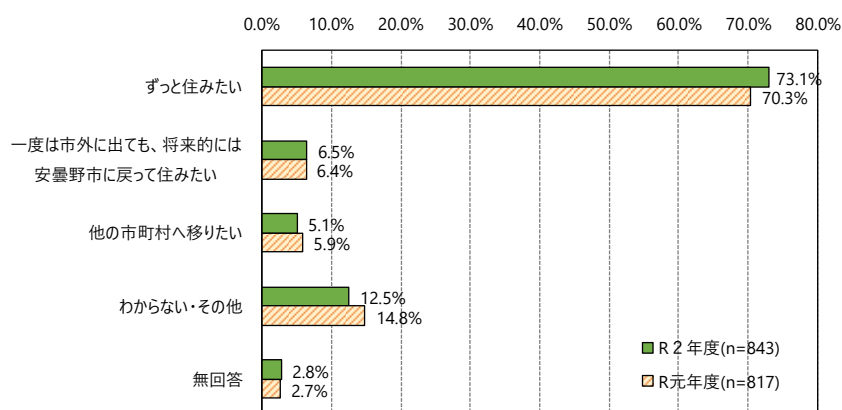
(2) 経営方針に関する市民意識調査 (サマリー)



Q：市での生活にどの程度満足していますか？

「とても満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した人を合算した割合は75.6%であり、前年(71.7%)と比べて3.9ポイント増加しています。なお、

- ・年代別にみると、「とても満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した人の割合は、18歳以上～20代で84.6%、次いで40代が82.6%、60代が79.5%と続きます。一方で、30代は58.4%と、低い割合を示しています。
- ・地域別にみると、「とても満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した人の割合は、三郷地域が80.9%と最も高く、次いで豊科地域が80.3%、穂高地域が73.7%、明科地域が64.6%、堀金地域が62.5%となっています。



Q：あなたは、これからも安曇野市に住みたいですか？

「ずっと住みたい」、「一度は市外に出て、将来的には安曇野市に戻って住みたい」と回答した人を合算した割合は79.6%であり、前年(76.7%)と比べて2.9ポイント増加しています。なお、

- ・年代別にみると、「ずっと住みたい」、「一度は市外に出て、将来的には安曇野市に戻って住みたい」と回答した人を合算した割合は、60代以上では特に高まる傾向がみられます。
- ・地域別にみると、「ずっと住みたい」、「一度は市外に出て、将来的には安曇野市に戻って住みたい」と回答した人の割合は、豊科地域が83.6%と最も高く、次いで堀金地域が80.7%、三郷地域が78.3%、穂高地域が76.9%、明科地域が70.9%となっています。

【施策毎の評価の概要】

施策名	評価（現状、課題）																			
<p>④①協働によるまちづくりの推進</p>	<table border="1" data-bbox="432 241 1294 389"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民活動サポートセンターにおける活動団体取材件数（件）</td> <td>14</td> <td>35</td> <td>100</td> <td>停滞</td> </tr> <tr> <td>区への加入世帯数（世帯）</td> <td>28,973</td> <td>28,761</td> <td>29,300</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・団体間の連携促進のための目標である市民活動サポートセンターの取材件数は目標に対し停滞しています。取材を担うサポーターの育成が課題です。また、区への加入は横ばいの状況です。区の意義を多くの市民に理解していただくための取組の強化が必要です。 ・区の部制度導入は、区毎の状況を個別に踏まえて進める必要があります。また、優良事例を他の区に周知し広める取組も必要です。 ・協働に関する各種団体の接点を増やすため、市民活動サポートセンターの機能強化や横繋ぎのイベント（市民活動フェスタ等）の工夫が課題です。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	市民活動サポートセンターにおける活動団体取材件数（件）	14	35	100	停滞	区への加入世帯数（世帯）	28,973	28,761	29,300	順調
指標	当初	R 2	目標	進捗																
市民活動サポートセンターにおける活動団体取材件数（件）	14	35	100	停滞																
区への加入世帯数（世帯）	28,973	28,761	29,300	順調																
<p>④②広報・広聴の充実</p>	<table border="1" data-bbox="432 824 1350 972"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市のホームページへのアクセス件数（件）</td> <td>476,222</td> <td>604,344</td> <td>607,230</td> <td>順調</td> </tr> <tr> <td>市政懇談会参加者数（人）</td> <td>567</td> <td>54</td> <td>790</td> <td>停滞</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・指標のホームページへのアクセスは、順調に推移しています。市政懇談会（ふれあいミーティング）は、コロナの影響で開催を見合わせたものもあり停滞しています。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	市のホームページへのアクセス件数（件）	476,222	604,344	607,230	順調	市政懇談会参加者数（人）	567	54	790	停滞
指標	当初	R 2	目標	進捗																
市のホームページへのアクセス件数（件）	476,222	604,344	607,230	順調																
市政懇談会参加者数（人）	567	54	790	停滞																
<p>④③地域情報化の推進</p>	<table border="1" data-bbox="432 1209 1350 1290"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電子申請・届出システム（様式）</td> <td>28</td> <td>65</td> <td>30</td> <td>予定以上</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回って推移しています。 ・国や県でデジタル化、DX が推進されています。これらの内容を考慮した上で、市の対応を決定していく必要があります。 ・マイナンバーカードの活用策として、個人認証を要する行政手続きに関するオンライン化が検討課題となっています。なお各種証明書のコンビニ交付は、市民サービスの向上と市民課窓口の負担軽減の両面で有効と評価しています。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	電子申請・届出システム（様式）	28	65	30	予定以上					
指標	当初	R 2	目標	進捗																
電子申請・届出システム（様式）	28	65	30	予定以上																
<p>④④質の高い行政経営の推進</p>	<table border="1" data-bbox="432 1673 1407 1753"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>当初</th> <th>R 2</th> <th>目標</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市職員の通信教育講座受講者割合（％）</td> <td>8.4</td> <td>9.8</td> <td>10</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・通信教育講座の受講は目標値に対して順調に推移しています。 ・当面大きな課題となる施設、インフラの維持改修については、公共施設等総合管理計画以下、関連計画との整合を図り、優先付けを行いながら部局横断的に進めていく段階にあります。 ・行財政改革に関しては、新たな課題に対応するための機構改革、行政のデジタル化、行政サービスの選択と集中等不断の見直しが必要です。 					指標	当初	R 2	目標	進捗	市職員の通信教育講座受講者割合（％）	8.4	9.8	10	順調					
指標	当初	R 2	目標	進捗																
市職員の通信教育講座受講者割合（％）	8.4	9.8	10	順調																

施策名	評価（現状、課題）				
④健全財政の堅持	指標	当初	R 2	目標	進捗
	実質公債費比率（％）	9.6	-	12.3	順調
	市税現年収納率（％）	99.2	99.3	99.2	予定以上
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値に対して順調に推移しています。 ・ ふるさと寄附制度については、国の基準に即した対応を継続し、コロナ後は電子感謝券の活用も期待されます。また、新たな返礼品の研究も継続課題です。 				

（補足）

- ・ 市民意識調査の詳しい内容は別冊「令和2年度市政全般に関する市民意識調査 集計結果」をご覧ください。
- ・ 施策評価の詳しい内容は別冊「施策評価シート」をご覧ください。
- ・ 今後の政策形成にあたっては、この評価に加え、新型コロナウイルス感染症による影響、社会経済情勢の変化などを総合的に勘案して取組みます。